



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2024年01月22日 第1151号「週刊五十嵐レポート」

## 小企業、倒産増

11月16日付日経新聞、「小企業倒産、昨年36%増」という記事。2023年の小規模企業の倒産数は8292件と前年比36%増え、倒産全体の9割超を占めた。東京商工リサーチによると、23年の倒産は前年比35%増の8690件。全体の95%を従業員20人未満の小規模企業が占めた。

背景にあるのは、物価高と人手不足。交渉力が弱く取引先への価格転嫁ができていない。賃上げ原資に乏しい。人を集めることも出来ず、十分な商品やサービスを提供できない。さらに過大債務でゼロゼロ融資の返済がはじまり、資金欠乏。そして記事は、「効率経営へ新陳代謝促す」とまとめている。(価格転嫁が出来、人に魅力ある企業で、1人当りの粗利益が高く、経営効率が良く、毎期黒字であれば、小企業でも生き残れる)

会社は粗利益で生きている。人件費その他の経費、借入金の返済も粗利益から支払われている。必要な粗利益が不足すると赤字なる。それが続くといずれ会社は倒産する。倒産しないために必要な粗利益を安定して確保していく必要がある。

自社の決算書で1人当たりの粗利益を出し、上位同業者と比較してみる(上回っていれば、可)。自社の年間粗利益から何%が経常利益になるか、計算する(経常利益÷粗利益×100=10%以上であれば、可。20%以上、良)。これは「経営効率」を表す。

会社では顧客と接する仕事以外に多くの仕事がある。お客活動と直接関係のない仕事は合理化したり、カットして作業量を少なくしないと経営効率(労働生産性)を高めることはできない。ここに知恵と創造性が要る。現在ではIT技術をどう生かすかにかかっている。

建設業では24年問題が間近に迫る。週6日働いていたのが週5日なる。1日1.2倍の生産性を高める必要がある。今までの1日の仕事で2割ほど合理化、無駄な作業をカットしなければならない。そうしないと今までの工期は守れない。普通ならば、週1日分仕事は足りないから工期は延びざるを得ない。そこを生産性を高めることで工期が以前と変わらなければ(品質も変わらない)、選ばれる会社になる。知恵と創造性が未来を切り開く。

ちょっと  
気になる出来事

1月11日付朝日新聞、「山口市 世界『行くべき52ヶ所』に」という記事。米紙ニューヨークタイムズは、世界の名所を紹介する「2024年に行くべき52ヶ所」を発表。日本から山口市が選ばれた。

「人混みを避けて寺院と料理を味わう」という見出しとともに、国宝の瑠璃光寺五重塔や湯田温泉、陶芸工房やカフェがある路地などを紹介。7月にある山口祇園祭は京都の祇園祭に比べると小規模だが同じような歴史があると評価されている。

昨年の「2023年に行くべき52ヶ所」では盛岡市が選ばれ話題になる。盛岡市は、23年、国内外からの観光客でにぎわった。観光ガイドを務めるある人は、「何にもない、何でもない、東北の片田舎」という。ニューヨークタイムズに盛岡市を紹介した外国人は、「日々の暮らしの中に残すべき価値がある」と。

ずっと同じところにいると、その良さがわからなくなる。一度外に行き、外から見てみる。そうすると、当たり前だったことが本当はすごいものだったりする。ビジネスにも通ずる。



一口メモ  
知識

## 洞察力を養う

洞察とは物事の裏にある本流を見抜くこと。また、外側に現れない人の心、内面の動きを読むことも洞察である。

洞察力を説く風地観(ふうちかん)の卦(か)には、洞察に至る段階が次のように記されている。

第一「童観(どうかん)す」幼い子供の目。何が起きているかという現象だけ観る。

第二「窺(うかが)い観る」人の見解を聞いて物事を窺い知る。広く世間を知らず、小さな視野で物事を観る。

第三「我が生(せい)を観る」主観的に観る。自分を省みて、出处進退の行動を判断するが、まだ客観視には至らない。

第四「国の光を観る」物事を客観視できる段階。表面にとらわれず物事の質を観る段階である。

第五「民を観て我が生を観る」起こっている物事を写し鏡のように観、物事全体を正しく導くために何をすべきか知る「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

